



グイマツ雑種F₁の成長量及び資源の現況と造林技術について

道総研

林業試験場森林経営部経営グループ 滝谷美香

研究の背景・目的

グイマツ雑種F₁（詳細後述）は、カラマツに比較して耐鼠性が高く材質にも優れているため、1970年代以降に造林が進められてきました。本発表では、グイマツ雑種F₁について、資源量や成長の特性について報告するとともに、優良家系苗を利用した造林技術の展望について説明します。

研究の内容・成果

1. グイマツ雑種F₁について

母：グイマツ精英樹 × 父：カラマツ精英樹

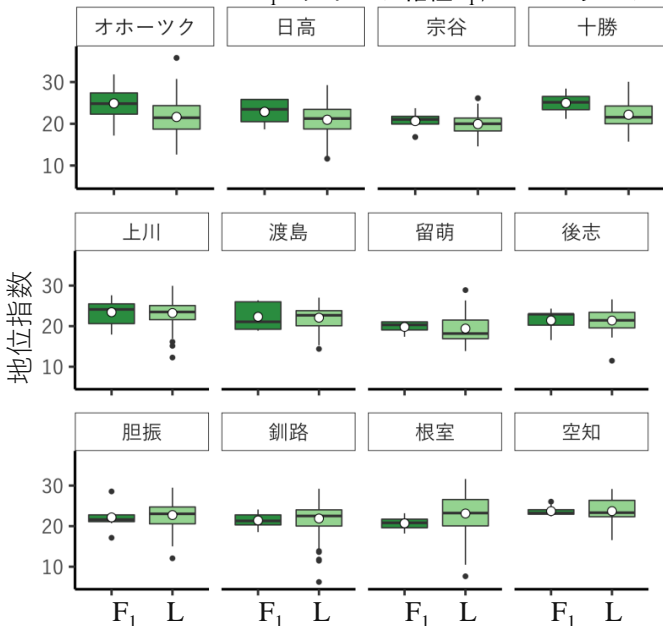
グイマツ雑種F₁

- カラマツに比較して、右の特長があります。
- ・ネズミ被害 少
- ・材質強度 高
- ・形質等 良

3. 樹高成長量（地位指数）の比較

振興局単位で平均地位指数を比較

F₁：グイマツ雑種F₁， L：カラマツ



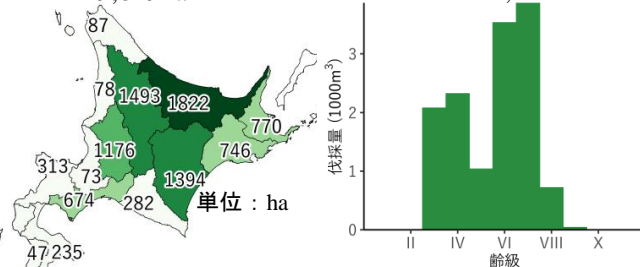
- オホーツクや十勝など（上段）、カラマツの成長の良い箇所でもF₁の方が高い傾向にありました。
- 同程度（中段）やF₁の方が低い地域（下段）もありました。
- 地位指数を調整することで、カラマツ版の収穫予測システムを利用したF₁人工林の林分収穫予測が可能であることがわかりました。

※データは林野庁主管森林吸収源データおよび、北海道水産林務部主管地位指数調査データ、林分調査データを使用した。

2. 資源量と伐採量（一般民有林）

2017年F₁人工林面積：
9,819ha

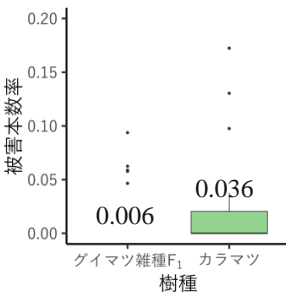
2016年伐採量：
13,601 m³



- オホーツク、十勝及び上川地域に多く植栽されています。
- 伐採量はカラマツ全体の数%程度ですが、今後は増加が見込まれます。

※いずれも北海道水産林務部森林計画課提供データにより作図

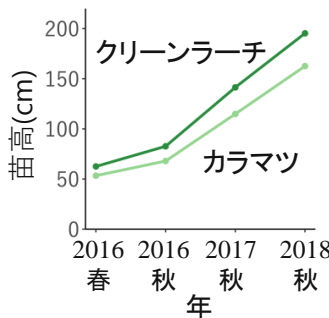
4. ネズミ被害の比較



- 左の項目3で平均地位指数を算出した林分データのうち、ネズミ被害の記載のあるもので比較しました。
- 林分単位でのネズミによる立木の被害率は、グイマツ雑種F₁で低い結果になりました。

5. 優良家系クリーンラーチの造林技術の展望

- 特に成長の良いF₁“クリーンラーチ”が開発されています。



- 3年生では、苗高成長がカラマツよりも良い結果となりました。
- 植生高も早くに脱出し、下刈期間を短縮できる可能性があります。

※千歳林業株式会社社有林（岩見沢市内）植栽試験

今後の展開

グイマツ雑種F₁特にクリーンラーチに適した造林・育林施業技術を確立し、施業指針・計画の立案を支援するシステムを構築することを検討しています。

※本研究の一部は生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」の支援を受けて行いました。